

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09002962 A**

(43) Date of publication of application: **07.01.97**

(51) Int. Cl.

**A61K 35/78**

**A61K 35/78**

**A61K 7/00**

**A61K 9/70**

(21) Application number: **07188129**

(71) Applicant: **KOSHA HIROMOTO**

(22) Date of filing: **19.08.95**

(72) Inventor: **KOSHA HIROMOTO**

(54) **WAX PACK UTILIZING HERB**

(57) Abstract:

PURPOSE: To prevent dermatosis such as dermatitis or athlete's foot and diseases derived from hematogenous disorder.

CONSTITUTION: Wax 1 containing ingredients of a herb having medicinal effect is melted like mud with heat and the melted wax is made to flow to dirt part on the surface of body skin to directly pack the part with the wax or gauze 2, tissue paper, etc., is pressed to the part on dirt skin surface of body using paste and wax 1 melted like mud by heat is made to flow onto the skin surface to pack the part with wax.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-2962

(43) 公開日 平成9年(1997)1月7日

(51) Int. Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADA		A 6 1 K 35/78	ADAV T C U K
7/00			7/00	

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平7-186129

(22) 出願日 平成7年(1995)6月19日

(71) 出願人 000166074

古謝 宏元

沖縄県中頭郡北谷町字砂辺346番地の2

(72) 発明者 古謝 宏元

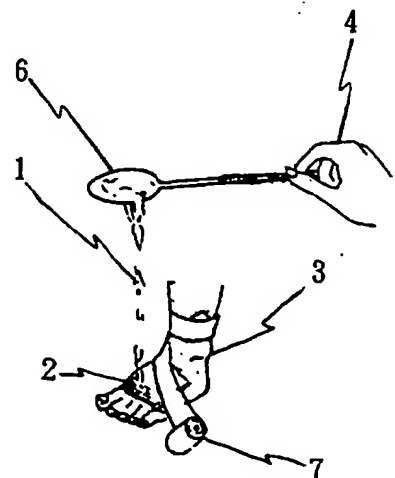
沖縄県中頭郡北谷町字砂辺346番地の2

(54) 【発明の名称】 薬草を利用した靴バック

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、従来、体の皮膚表面の汚れからくる、かゆみをとめるのに直接、手指の爪先あるいは孫の手のような道具で、その部分をかくことで、かゆみをとめていますが体の皮膚表面にキズをつけ、そこから雑菌が体に入り皮膚炎の原因をつくっていました。本発明は、このような皮膚炎の原因及び体の皮膚表面の衛生上の問題からくる水虫等の皮膚病を未然に予防する事及び血行障害からくる病気の予防を目的とするものである。

【構成】 本発明は、薬用効果のある薬草の成分を含んだ蠟を熱でとろとろに溶かし体の皮膚表面の汚れた部分に流し直接バックしたり、薬草のエキスを含んだガーゼ・ティッシュペーパー等を体の汚れた皮膚表面の部分にノリで押さえつけ、その上にとろとろに熱で溶かした蠟を流しバックしたものである。(皮膚表面の弱い体質の人や子供・老人の方は、ガーゼ・ティッシュペーパー等の枚数で蠟の温度調節ができますので火傷することはありません。)



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 薬草の粉末を含んだ蠟を熱で溶かして体の皮膚表面に流しバック状にするための薬草を利用した蠟バックあるいは薬草のエキスをしみ込ませたガーゼ・ティッシュペーパー等をノリで体の皮膚表面に押さえた状態で熱で溶けた蠟をガーゼ・ティッシュペーパー等の上に流すための薬草を利用した蠟バック。

【請求項2】 熱で溶けた状態の蠟に、しょうが科・ゆり科・きく科等の薬草の粉末を含ませた特許請求の範囲第1項記載の薬草を利用した蠟バック。

【請求項3】 ガーゼ・ティッシュペーパー・包帯・手袋及び靴下状（紙及び布）等に、月桃・ウッチン・ヨモギ・アロエ・ニンニク・しょうが等の薬草のエキスをしみ込ませた特許請求の範囲第1項記載の薬草を利用した蠟バック。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、体の皮膚表面における衛生上の問題から、起こることが予想される皮膚炎や水虫等の皮膚病を未然に予防すること及び血行障害からくる病気の予防等に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、体の皮膚表面の汚れや雑菌を除去するのに石鹸を利用して水で洗い流したり、アルコールで拭き取ったりしていますが水がないところや水虫を予防するのに水を使用することは、その手入れに多大な手数を要する欠点がありました。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来、体の皮膚表面の汚れからくる、かゆみをとめるのに直接手指の爪先あるいは孫の手のような道具で、その部分をかくことでとめていますが体の皮膚表面にキズをつけ、そこから菌が体に入り、皮膚炎の原因をつくっていました。本発明は、このような皮膚炎の原因及び体の衛生上の問題からくる水虫等の皮膚病を未然に予防すること及び血行障害から\*

2

\*くる病気の予防を目的とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、体の皮膚表面を清潔にして新陳代謝を促進、雑菌を除去するため、殺菌効果・皮膚にやさしい薬草の成分を含んだ蠟をどろどろに溶かし皮膚表面の汚れた部分を直接バックしたり、薬草の成分を含んだガーゼ・ティッシュペーパー等で体の皮膚表面の汚れた部分を押さえて、その上にどろどろに熱で溶かした蠟を流しバックしたものである。

## 10 【0005】

【実施例】 図1は、薬草の成分を含んだガーゼを足の上にノリで、はりつけて、本発明を施した蠟を、その上に熱で溶かし流してバック状態にした斜視図である。図2は、本発明を施した蠟燭の斜視図である。

## 【0006】

【発明の効果】 このように構成したから、体の皮膚表面の汚れ雑菌が蠟に付き熱で殺菌され皮膚表面を清潔にし、新陳代謝を促進し、皮膚炎や水虫等の皮膚病を未然に予防する事ができ、血行をよくすることができる。

（皮膚表面の弱い体質の人や子供・老人の方は、蠟の熱の加減を体の皮膚表面に付けるガーゼ・ティッシュペーパー等の枚数で調節する事ができるので火傷する事は無い。）

## 【図面の簡単な説明】

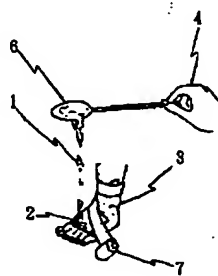
【図1】 本発明の使用状態の斜視図。

【図2】 本発明を施した蠟燭の斜視図。

## 【符号の説明】

- 1 蠟
- 2 ガーゼ
- 3 足
- 4 手
- 5 蠟燭
- 6 スプーン
- 7 包帯

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 K 9/70

識別記号

3 7 3

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 9/70

技術表示箇所

3 7 3